

2020年度東海大学付属熊本星翔高等学校 学校評価結果

分野	重点目標	取組み計画・内容					次年度	第三者評価		
			成果	課題	2020年度	2019年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
学校運営	<p>・学校運営方針に沿った教育活動を実践する。</p> <p>・地域から高い評価を受ける学校づくりと中学校や保護者に選ばれる学校づくりに邁進する。</p>	<p>(1) 学校の特色を示す。</p> <p>(2) 入学したい・させたい学校とする。</p> <p>(3) 危機管理・安全対策に努める。</p> <p>(4) 教育に熱心に取り組む。</p> <p>(5) 施設設備等教育環境の充実に努める。</p> <p>(6) 保護者対応の充実に努める。</p> <p>(7) 保護者・地域との連携と情報発信に努める。</p>	<p>・生徒は4項目中3項目が下がり、保護者は7項目中全てで評価が上がり、教職員は10項目中8項目で評価が下がっている。</p> <p>・入学したい、入学させたい学校では、昨年度に続き、生徒・保護者とも微増しており高い評価を得ている。</p> <p>・学校運営全体に対して保護者からの評価がすべて増加し、昨年度に続き数値的には高い評価を維持できている。</p> <p>・教職員の教育・部活動に対する姿勢についての評価は高い。</p> <p>・危機管理・安全対策の評価では、生徒・教職員は低下し、保護者は増加した。</p> <p>・保護者対応について保護者・教職員とも評価が一致して増加し、改善した。</p>	<p>・入学させたい学校として保護者の評価が昨年度に続き微増し、学校に対するイメージと教育内容の理解が定着しつつあると考える。日頃の教育活動を更に充実させ更なる理解促進が必要である。</p> <p>・危機管理・安全対策の評価では、コロナ対策の取組み(日々の消毒や週末の学校全体の消毒など)を生徒、教職員で共有できなかった。</p> <p>・情報発信では、教職員は低下し、保護者は増加した。コロナ禍のような状況では情報を精選し、リアルタイムで発信していく必要性を感じた。また、学校生活や学校の取組みの発信を充実することで、内外に対し理解を得ていく必要がある。</p> <p>・例年とコロナウィルス禍での学校生活に差異があり同じ時間を過ごした生徒と教職員は充足感が得られていなかった。</p>	生徒 2.88	生徒 3.05	<p>・今後も学校生活全般における生徒の満足度向上に努めていく。距離感を意識しながら、生徒や家庭に寄り添った関りをしていく。また、保護者と連携し、生徒のバックアップや教育諸活動を実施し、成果を上げていきたい。</p> <p>・危機管理室及び安全衛生員会を中心に、学校運営に係る様々なリスクに対する管理体制の強化、生徒、保護者に対して取組みなどの情報の発信と共有、そして理解をして頂く。</p> <p>・生徒の活躍やコロナ対策の取組みなど様々な情報を発信。共有し、生徒と教職員の自己肯定感を高めていく。</p>	<p>・教育活動ならびに学校改革、コロナ対策など学校での取組みや活動が生徒・保護者に伝わるよう、日々の学校生活についてホームページや専用アプリ、校内掲示などを利用して発信していく。</p> <p>・コロナ対策をしたうえで、地域活動への積極的な参加と通学マナーの向上、挨拶の励行を推進し、地域に認められる学校としていく。PTAにも協力を依頼し、学校全体で活動していく。</p> <p>・教職員研修を通して、知識と対応の向上に努める。自己満足とならぬようケーススタディを用いて、相手からの評価を聞く機会を設ける。</p> <p>・コロナ対策や、引き続き熱中症指数計測器、雷検知器等を整備し安全管理対策を実施する。</p>	-	-
			保護者 3.23	保護者 3.03						
			教職員 3.02	教職員 3.13						
学習指導	<p>・基礎学力の定着を図る。</p> <p>・授業の充実を図る。</p>	<p>(1) 基礎学力の定着に努める。</p> <p>(2) 家庭学習を身につけさせる。</p> <p>(3) ベストティーチャー制度の充実を図る。</p> <p>(4) 学習意欲の向上に努める。</p> <p>(5) 東海大学と連携した授業やプログラムの推進を図る。</p> <p>(6) 図書室の積極的な利用を促進する。</p>	<p>・学習指導においては、総合評価で生徒・保護者・教職員で増加した。</p> <p>・項目別で見ると生徒・保護者共に「学校は、東海大学と連携した授業やプログラムを実施していると思いませんか。」以外では増加した。</p> <p>・教職員の増加については新しい設問が1項目登場したことによる増加で、それを考慮すると、1項目(指導方法や内容の工夫)以外は減少している。</p> <p>・図書室の利用は、生徒は微増、教職員は昨年度を下回った。</p>	<p>・ベストティーチャー制度は、保護者には授業を参観する機会、教職員には自身の授業を比較して見つめ直す機会となり、取組み自体は良い。保護者・教職員に有意義な企画となるよう実施方法に工夫したい。</p> <p>・生徒・保護者共に「学校は、東海大学と連携した授業やプログラムを実施していると思いませんか。」が低下した。コロナ禍の影響のため数々の行事が中止になり、大学と十分な連携が取れなかった。</p> <p>・図書室利用の促進をしていく。</p> <p>・コロナ禍の影響も考えられるが、生徒と保護者の評価の上昇に比べ、教職員自身の評価は低下している。</p>	生徒 2.86	生徒 2.60	<p>・生徒の学習意欲向上のためには、積極的な授業への参加、家庭での課題に留めることなく、自主的な学習の習慣を身につけさせる必要がある。</p> <p>・ベストティーチャー制度の、実施日や開催案内発信時期などを変更し、参観保護者の増加に努めたい。</p> <p>・学習に関する情報発信を積極的に行い、学校と家庭が連携して学習意欲、学力向上を図る必要がある。今年度から全学年がタブレットを所有するため、有効活用したい。</p> <p>・図書室の利用促進にタブレットを活用し、ICT教育と図書室の連携を検討していく。</p> <p>・教職員の自己肯定感を高める取り組みを考えていく。</p>	<p>・受験指導ではなく生徒個々の興味・関心を尊重しながら学習意欲を高め、家庭学習の習慣と基礎学力の定着を図る。</p> <p>・授業時数不足などの生徒に、特別補講を通して学習意欲と基礎学力の向上を図る。</p> <p>・特進クラスを中心に学習意欲の高い生徒に対しては、課外や夏期集中講座などを実施し、更なる学力向上を図る。</p> <p>・引き続きICT機器の利用・活用方法を教職員に提示し適宜講習会の実施を行う。また、教職員のICTに関するスキルアップを図り、生徒へ学習教材を発信していき、基礎学力の定着向上を図る。</p> <p>・ICT機器の利用促進を個人に促すだけでなく、学校全体としての取り組みとする。</p>	-	-
			保護者 2.78	保護者 2.71						
			教職員 2.78	教職員 2.76						
クラス指導	<p>・生きる力の育成に励む</p>	<p>(1) 学級担任、部活動顧問、関係教職員が連携し生徒間の好ましい人間関係の構築に努める。</p> <p>(2) 生徒の悩みや問題相談に努める。</p> <p>(3) 楽しいクラス運営に努める。</p> <p>(4) クラス・学校の一員としての役割・自覚を促す。</p>	<p>・三者とも評価が低下している。</p> <p>・項目別にみると、以下の通りである。「生徒の悩みや問題相談に努める。」の項目で生徒は横ばい、保護者は低下、教職員は上昇し、三者で評価が分かれた。</p> <p>「クラスが楽しい」の項目が生徒と保護者共に低くなった。</p> <p>「学校・クラスの一員であることの自覚」に対して・生徒・教職員共に低い評価をしている。</p> <p>「教職員は、保護者と連携してお子様の育成に努めていると思いませんか。」に対し、保護者が低い評価をしている。</p>	<p>・コロナ禍の中、適切な距離を持ったり、表情が見えなかったりする中、クラスや学年での仲間づくりが思うように出来なかった。</p> <p>・昨年度、評価の高かった「楽しいクラス」について評価が低い。どのような状況でも「笑顔で学校生活が送れる」取組みを考える。</p> <p>・文化祭や体育祭の規模縮小や各種行事におけるクラスでの取組みの減少、部活動の活動制限など、クラスや学校や部の一員であることを生徒が自覚する場面が少なかった。</p> <p>・子どもが「笑顔で登校したり、楽しい学校生活の話題を話したり」する様子が保護者に感じられなかった。</p>	生徒 3.1	生徒 3.19	<p>・昨年に引き続き、コロナ対策委を踏まえ、出来る限りクラスや学年で取り組む行事を実施し、生徒一人一人に役割や仲間との関りや気づきの機会を作る。</p> <p>・より一層、日々のホームルーム活動や学校行事を通して、生徒同士が思いやれる気持ちやクラス・学校の一員としての自覚を育むために、学級担任や部活動顧問など関係教職員が連携を図りながら、計画的に生徒への働きかけを実施する。</p> <p>・担任・学年・学校と保護者が情報を共有し、連携することで生徒(子ども)のフォローアップをし、クラス間で差異が生じないように、学校全体で指導や情報発信の統一を図っていく。</p>	<p>・クラス・学年・部活動などで生徒の居場所を作る取り組みをし、笑顔で学校に登校できる取り組みや生徒の状況について情報を共有していく。</p> <p>・学級担任・教科担当教職員・部活動顧問など教職員間の連携を強化し、生徒の悩みや問題の早期発見と迅速な対応を実施する。</p> <p>・生徒が抱える問題に対し、スクールソーシャルワーカーとの連携や教職員研修などを実施し教職員の意識と資質の向上を図る。</p> <p>・学級担任のみならず全教職員で、4かけ運動(声をかける・手をかける・目をかける・心にかける)の充実を図り、クラス運営をサポートする。</p>	-	-
			保護者 3.08	保護者 3.16						
			教職員 3.09	教職員 3.16						

2020年度東海大学付属熊本星翔高等学校 学校評価結果

分野	重点目標	取組み計画・内容					次年度		第三者評価	
			成果	課題	2020年度	2019年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の定着を徹底し、落ち着いた学校生活環境づくりに努める。 	(1) 礼儀や挨拶の励行に努める。 (2) 頭髪・服装など身だしなみと登下校時を含む公共マナーの遵守に努める。 (3) 清掃や整理整頓に努める。 (4) 施設・設備・備品等を大切に使用させる。	<ul style="list-style-type: none"> 三者とも評価が低下している。 生徒と保護者はすべての項目で、教職員は1項目以外で低下している。 項目別にみると、以下の通りである。「教職員は、礼儀や挨拶を習慣づける指導をしている。」で教職員のみ、上昇している。 挨拶の励行、身だしなみ、清掃・整理整頓、通学時の公共マナーの遵守など、生活習慣の定着では継続的な指導により、生徒には高い評価を得たが、保護者については挨拶と清掃の評価ポイントは微減となった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍による影響で生徒にストレスが増え、その影響が基本的習慣に影響を与えていると考えられる。教職員の指導が単なる生徒のストレス増加になって、悪循環にならないようにしなければならぬ。 三者とも生活習慣の評価が低く、問題意識が共通している。 公共マナーの遵守では、通学マナーに関する苦情やSNSの書き込みに関するトラブルを改善する必要がある。 	生徒 3.13	生徒 3.32	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の指導(礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみ、公共マナーなど)において、生徒・保護者・教職員の評価でギャップが生じていることから、更なる指導の充実と保護者への情報発信を実施し理解促進を図る必要がある。 生活習慣に関しては、学校と保護者で連携し、生徒自身が持つ問題意識を解決していく。 公共マナーの順守では、SNS指導や交通指導に関する講演を通して問題意識を高め、指導を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部と学級担任が連携し、礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみなど生活の基本を身につけさせ、各家庭でも成果が実感ができる指導を実施する。 生活習慣に関しては、全体での取り組みと個々への対応(問題行動のある生徒には保護者との面談を実施など)を行い、学校と家庭が連携して生徒の改善を図っていく。 通学やSNS利用のマナー向上については、「外部機関(警察やJRなど)の協力(講演など)」を得ながら、「状況に合わせた指導を実施し、トラブルや苦情件数の大幅な減少を目指す。 	-	-
					保護者 3.05	保護者 3.22				
					教職員 2.73	教職員 2.92				
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校への進学を促進する。 	(1) 進路に関する情報提供に努める。 (2) 進路に関する指導・面談に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 三者とも評価が低下している。 進路指導部、学級担任、部活動顧問が連携し、約50%が東海大学へ進学している。 進路に関する情報提供、指導・面談では、三者ともに前年度を下回る評価になった。コロナ禍で様々な進路の取り組みが企画と中止を繰り返し、充実した進路指導が実施できなかった。 各業界で活躍する卒業生による、高校生活の過ごし方から進路・職業選択に関するキャリア教育講座「先輩学講座」を継続的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症が流行った状況であっても、取り組める進路指導や進路情報の発信と共有を実施する。 コロナ禍の影響を受け、進路指導を行う時間が少なくなっているが、進学活動や就職活動にならないようにする。「東海大学のメリットが十分に伝わったか」に関する項目で三者とも評価が低かった。 進路保証は高等学校における重要な事柄であるため、さらなる上昇を目指す必要がある。その取り組みについて常に検討の余地がある。 卒業生による講座「先輩学講座」への評価は非常に高く、引き続き継続していきたい。 	生徒 3.07	生徒 3.09	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する情報発信の回数を増加させ、生徒・保護者の理解促進を図り、進路選択の幅を広げる。 進学・就職に係わらず生徒の希望を叶える指導を実践していく。 近年の女子生徒の増加に伴い、4年制大学への進学が減少傾向にある。女子生徒への進路指導の充実と保護者の意識改革を図る。 コロナ禍でも「付属高校にとって、一番の進路保障である付属推薦に伴う東海大学の概要や魅力を紹介・体験する機会」を作る。 東海大学以外の進路希望者への情報提供ならびに面談指導の更なる充実をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対してはメールで情報を配信、保護者についてはホームページで公開、生徒については引き続き面談や資料で伝える。 進路指導部と学級担任との情報連携を密にすることで、生徒・保護者に情報を正確に伝える。 付属推薦については、入学時から考察する時間があるため、ミスマッチを防ぐ指導を充実する。 大学進学メリットを女子生徒と保護者に対して資料をもとに明確に示す。 東海大学以外の大学、専門学校、就職等生徒個々の進路希望に応じた適時かつ適切な情報提供を実施する。 生徒の進路希望先と現状にギャップがある場合、三者面談を密に行い進捗状況を確認していく。 	-	-
					保護者 2.92	保護者 3.20				
					教職員 3.10	教職員 3.11				
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の更なる推進を図る。 生徒会活動の充実を図る。 	(1) 学校行事、生徒会行事への積極的な参加を促す。 (2) 教職員は部活動の指導に熱意を持って取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価は上がっているが、保護者と教職員の評価は低下した。 学校行事、生徒会行事への積極的な参加では、三者とも低くなり、教職員の評価は群を抜いて低くなった。 部活動の指導では、生徒・保護者とも昨年度より評価が増加したが、教職員の評価は低くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校行事や生徒会行事に積極的に取り組んでいますか。」の項目に対し、コロナ禍の中で例年と同じ取り組みが出来なかった生徒とその保護者、どうか行事の開催を行ったり中止にしたりした教員の立場の違いが如実に出てた。 部活動加入率が年々減少傾向にある。本校への帰属意識の向上と本人のコミュニケーション能力の向上のためにも部活動への加入促進を図る必要がある。 	生徒 3.19	生徒 3.17	<ul style="list-style-type: none"> 不測の事態の時でも、例年と同じような満足度が得られる行事の研究が必要である。 部活動、生徒会活動における保護者とのコミュニケーションを十分に図るとともに、活動成果をHPなどを通して広く伝え保護者をはじめとする利害関係者へ広く伝え、更なる保護者への理解促進を図る必要がある。 部活動指導教職員の業務バランス(教科・分掌・部活動業務)の適正化に向けた検討を行い、部活動指導教職員のライフワークバランスと部活動指導の意欲向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の練習方法を工夫することで、部活動での成績向上(勝利至上主義ではない)と学習時間の確保にも配慮し、更なる文武両道の実現を目指す。次年度から週に最低1日は休養日を設けるとともに、練習計画表を作成し、計画的な練習を行う。また、計画表を生徒・保護者に配布し、活動内容の周知を図る。 活動の活性化のためにも部活動、生徒会への生徒加入率の向上を図る。 一年単位での変形労働制が導入され、部活動指導者のライフワークバランスと運用の改善を図る。 	-	-
					保護者 3.04	保護者 3.13				
					教職員 3.18	教職員 3.23				
第三者評価委員 (2020年2月21日実施)		[第三者評価委員からの意見] ○引き続き学校と地域が連携し、共に発展できますよう今後もよろしくお願いたします。 ○学校経営の方針が教育活動の実践と密着し、各分野で成果をおさめるための努力が十分になされている。 ○在籍している本校の卒業生に対しても温かく、親身にご対応いただき、感謝申し上げます。 ○所要で何事となく学校まで足を運ばせて頂きましたが、先生方の丁寧な対応に加え、生徒たちの気持ち良い挨拶と清々しい表情にいつも感心しております。 ●本年度(2020年度)第三者評価委員会では、生徒・保護者・教職員による学校評価アンケート集計結果から分析した自己評価ならびに次年度に向けた改善計画の説明、本校に対する意見聴取に留まる結果となった。次年度(2021年度)の第三評価委員会では、自己評価から得た自己評価ならびに改善策に対する妥当性についての評価体制を整え、学校運営の更なる改善を図っていく。								